

# 『モノづくり講座 ～達人の技伝承～』

～伝統工芸に学ぶ先人の暮らしの知恵～

飯南町 頓原公民館

## 1 頓原公民館の概要

所在地：〒690-3207 飯石郡飯南町頓原2084-5 飯南町生涯学習センター内  
平成8年4月開館 公設公営の地区公民館 地区内の人口約1,950人 750世帯  
館長1（非常勤） 主事1（常勤） 事務員1（常勤）

## 2 事業の概要

### (1) はじめに

①実証事業名 『モノづくり講座 ～達人の技伝承～』

②実証事業のテーマ

“達人の技” 伝統工芸から暮らしの知恵・エコロジーの心を学ぶ

③実証事業のねらい

地域の伝統工芸技能保有者（高齢者）からモノづくりの技やコツを学び、成果物を生活に活かす試みを通じてエコロジカルな生活スタイル・新しい価値観を発見する。

（使い捨てる消費生活から物を大切に作る心の醸成・生活の中でのエコロジー実践）

併せて使用可能な民具の発掘保存・復元製作を行い、民具や部品の材質・呼称等の聞き取り、使用方法・操作のコツ・使用材料等の詳細な記録をとり、データベース化を図ったうえ、使用マニュアルを作成する。

復元・購入した民具は使用マニュアルとともに学校・地域へ貸し出しを行い、成果物の寄付等により地域へ還元する。

### (2) 具体的な取組（内容、活動状況 等）

①技能保有者の発掘・登録

ア 飯南町老人クラブ連合会頓原支部と連携し技能保有者の調査・登録を実施

②こも編み機・筵機（むしろばた）・裂き織り機等の復元・購入

ア 地区に呼びかけ、使用可能な民具の収集を実施

イ 「こも編み機」「筵機」の復元製作、「裂き織り機」を購入設置

③「こも編み」技術の伝承



とんぼら探険隊  
H21.2月例会 こも編み



成果物（こも）を滑り止めとして  
公共施設・高齢者宅等へ配布

- ア 技能保有登録者を講師に児童対象「こも編み」教室の開講  
(児童対象体験活動：とんぼら探険隊 11月例会・2月例会・たんぼぼ畑工作教室)
- イ 成果物(こも)を積雪時の滑り止めとして、公共施設・一般家庭に寄付  
(生活に活かす方法を研究)
- ウ 一般対象「こも編み」伝承講座 開講
- エ 「こも編み」「俵づくり」技法の記録(デジタル化し保存)



#### ④「裂き織り」技術の伝承

- ア 児童対象「裂き織り」教室(たんぼぼ畑手芸教室 簡易織り機使用)
- イ 一般対象「裂き織り」伝承講座開講
- ウ 「裂き織り」技法の記録(デジタル化し保存)
- エ 頓原地区婦人会と連携し「裂き織り出前講座」の実施
- オ 「裂き織り機」地域への貸し出しを実施
- カ 公民館広報紙を通じ、環境問題解決に関する情報提供、特に「裂き織り」を通じた資源のリサイクル呼びかけを実施



#### ③「筵機(むしろばた)」技術の伝承

- ア 一般対象「筵機(むしろばた)」伝承講座開講
- イ 中学生「筵機(むしろばた)」体験学習
- ウ 小学生「筵機(むしろばた)」体験学習
- エ 「筵機(むしろばた)」技術の記録(デジタル化し保存)
- オ 成果物(むしろ)の活用法研究



### 3 事業の成果と課題

- (1) 講座受講者（児）が技をマスターし、一部の成果物を地域へ寄付して好評を得た。  
今後も、継続して複数回の講習会を実施し、技能保有者の拡大に努める。
- (2) 今後の講座実施方法について、より幅広い受講を促すため、頓原地区婦人会との連携を深め婦人会と共催形式で小地区出前講習を積極的に進める。
- (3) 学校教育活動での展開をめざして、学校向けプログラムを作成し、情報や民具、講師等を提供する。
- (4) 地域の技能保有者を発掘する段階で「注連縄」等、ごく一部の伝統工芸は商業ベース化して地域に伝承されているが（老人クラブ・注連縄部会）、その他大部分の技術は高齢化に伴い技術が失われ、危機的な状況にあることを再確認した。特に「筵機」技術は廃れる寸前で、かろうじて一人の技能保有者を発掘し、技術を記録できた。  
この事業は民俗学的見地からも有意義であることを認識した。  
（この状況は全国的なレベルで進行しており、大分県教育委員会から「筵機」について情報提供を求められたことから推察できる：実証！「地域力」醸成プログラムのHPから当公民館の取組を知ったとのこと）
- (5) 登録した技能保有者を講師に開講したことで、講師（高齢者）の生きがいくりの場ともなった。また、飯南町老人クラブ連合会の地域貢献事業としての側面もあり、同連合会との連携強化につながった。
- (6) 「技術の伝承」「暮らしの知恵」を学ぶ試みは所期の目標を達成したが、この事業のもう一つの重要なテーマである「エコロジーの心を学ぶ」に力点を置いた展開は、今後の課題である。

### 4 今後の方向性

地域に伝わる伝統工芸は、今年度の取組以外にも多種存在しており、順次、他の民具の復元を図って新規の講座を展開したい。

併せて、特に頓原地区婦人会との連携を強化し、地域にある稲藁や木材・竹材等の資源活用、古着や古紙の再生技術等の「達人の技」を通じ、生活の中でのエコロジー実践「もったいない精神」の実践に焦点を当てた事業展開により、地域をあげた「新しい生活スタイル・新しい価値観」発見の機運醸成を図る。